

"YOUJI NO SHIRO JOURNAL" IS A FREE PAPER PUBLISHED BY HIBINOSEKKEI + YOUJI NO SHIRO.
TOPIC: 'OVERSEAS PROJECT Q&A' / 'RESUMING STUDY TOUR AFTER FIVE YEARS' /
'KSL KITCHEN IS SET TO RELEASE A NEW BOOK' / 'INTRODUCE THE LATEST PROJECTS OF HIBINOSEKKEI+YOUJI NO SHIRO'
PUBLISH: HIBINOSEKKEI PUBLISHING EDIT&INTERVIEW: YUMA MASUKAWA, AZUMI SUGITA INTERVIEWEE: TAKU HIBINO
PHOTO: HIBINOSEKKEI + YOUJI NO SHIRO / TOSHINARI SOGA (STUDIO BAUHAUS), RYUJI INOUE WEBSITE: E-ENSHA.COM

YOUJI NO SHIRO JOURNAL

“ 幼児の城ジャーナル ”

日比野設計+幼児の城が5月5日の「こどもの日」
に発行するフリーペーパー。
普段 SNS でしか見られない最新情報やスタッフ
の様子をお届けします。

vol.06
2026
TAKE FREE



KC Kindergarten and Nursery / Osaka, Japan

01

Overseas Project Q&A

海外プロジェクト
Q&A

02

Resuming Study Tour After Six Years

6年ぶりの海外 / 国内研修旅行

03

KSL Kitchen is set to release a new book!

KIDS SMILE LABO KITCHEN が
子どもと食に関する書籍を出版します！

04

Introduce the latest projects of HIBINOSEKKEI + Youji no Shiro

日比野設計+幼児の城の
最新プロジェクト紹介

What's HIBINOSEKKEI + Youji no Shiro?

1972年に創業した株式会社日比野設計の幼児施設設計のブランド。日比野設計+幼児の城が携わった幼稚園・保育園・学校は全国に600件以上に及ぶ。その他、福祉施設設計専門のブランド「福祉施設研究所」、幼児施設インテリア設計のブランド「KIDS DESIGN LABO」、カフェ&レストラン「2343 FOODLABO」や「2343 DEPARTMENT」、保育園「KIDS SMILE LABO」、マルシェ「ICHIGO MARCHE」を運営。施設設計と運営のノウハウを活かし、様々な事業を循環型の事業として展開している。

株式会社日比野設計
【本社】 〒243-0218 神奈川県厚木市飯山南4-18-1 / 046-241-3339
【支社】 〒243-0014 神奈川県厚木市旭町1-7-33F / 046-230-6155

HIBINOSEKKEI の
HPはこちら



世界の視点で日本の園をアップデート

Q&A

日比野設計 代表取締役会長
ひびのたく 日比野 拓

実は海外でも
仕事しています！



▲カザフスタン・アルマトイの象徴的存在「ティエンシャン」地形を体感

Q 世界中に著名な設計事務所がある中で、なぜクライアントは日比野設計を選び何を期待しているとお考えですか？

A 先進国になるほど子どもに対して過剰になる傾向があり、特に東アジア諸国では教育への熱が過剰になるあまり、大人主導が強まり、その反動で子どもたちの「主体性」が奪われてしまい、本来子どもが自ら学び、育つための環境が制限されてしまっている事は課題だと思っています。

Q 日比野設計が考える「世界共通の幼児教育の課題」とは何でしょうか？

A これまでにアメリカ、イギリス、カナダ、SIN、サウジアラビア、ケニア、ボツワナ、インド、インドネシア、台湾、韓国、中国、カザフスタンなど、沢山の国からお問い合わせをいただいたりしてきました。実績としては、中国で約40件を超える設計を手がけてきたほか、現在はインドネシア、カザフスタン、韓国、台湾でも新たなプロジェクトが進行中です。

Q これまでのような国から問い合わせがありましたか？また、実際にプロジェクトが進行している国についても教えてください。

「子どもたちにとって、本当に良い環境とは何か？」日比野設計がその答えを求めて世界中を訪れる中で得た経験と知見。海外プロジェクトの裏側から、各国の教育課題、そして私たちが日本の園オーナー様と共に実現したい未来まで、各地で得た等身大の視点を一問一答にまとめました。

A 現代建築は技術の進歩により、どんな場所でも似たような形態を実現できるようになりました。しかし、本来建築とはその土地の風土や歴史を反映すべき「土着性」の強いものです。私たちは設計に際し、必ず現地の環境や歴史を徹底調査します。例えば、高温多湿な地域では深い軒を出して風通しを確保し、マイナス10度を下回る寒冷地では断熱性を極限まで高めます。建材一つをとっても、その土地に根ざした素材を選ぶことで、その場所でのしか成り立たないデザインを構築しています。

Q 例えば、熱帯のインドネシアと、冬の寒さが厳しい韓国など、気候の違いはデザインにどのような影響を与えますか？

A 確かに著名な設計事務所は世界各地にありますが、「教育の本質」を深く理解した上で設計ができる事務所は世界的に見ても殆どいません。私たちは世界中の教育施設を視察し、教育メソッドだけでなく、世界中の「失敗例」までも熟知しています。成功と失敗の両面をこれほど把握している事務所は他にないと感じており、その圧倒的な経験値とそれに基づいた創造力に期待を寄せていただいているのだと思います。



▲ジャカルタの幼小中高一貫校の視察にて

A 海外プロジェクトでは、法規制の違いや、経営面での強い差別化を求められるため、日本では難しい大胆な挑戦が可能です。特に「教育理念を建築として可視化する」プロセスは、多様なバックグラウンドを持つ海外の私立教育施設との仕事を通じて改めて学び直すことができました。彼らの固有の文化や価値観を深く掘り下げ、それを建築という形に翻訳する作業は、設計

Q 「インターナショナルチーム」の存在は、事務所のクリエイティブティにどのような変化をもたらしましたか？

A 20年前は私たちが海外から学んで日本へ展開していましたが、現在は逆に、海外から私たちの提案を学びにくる時代になりました。ただ、海外の地方都市などに行くと、かつての日本にあったような、大人と子どもの強い信頼関係や人間関係の近さを目にする必要があります。現代の日本では隣人の顔も知らないことが当たり前になりつつありますが、こうした「人と人の温かなつながり」は、教育環境を考える上で日本に再び取り戻したい大切な要素です。

Q 海外プロジェクトを通じて、日本に「逆輸入」したいと感じる遊びや学びのアイデアはありますか？



▲台湾・台南のナイトマーケット

A 新旧問わず、建築、インテリア、飲食店、工芸、カルチャー、そして遺跡まで幅広く足を運びます。新しいものでも「なぜ上手くいっていないのか」「古いものでも「なぜ今も愛され続けているのか」を常に考えます。表面的なデザインだけでなく、その背景にある「理由」を探ることが、私たちの設計の糧となります。

Q 海外出張の際、必ずチェックする「現地のスポット」はどこですか？

A 新旧問わず、建築、インテリア、飲食店、工芸、カルチャー、そして遺跡まで幅広く足を運びます。

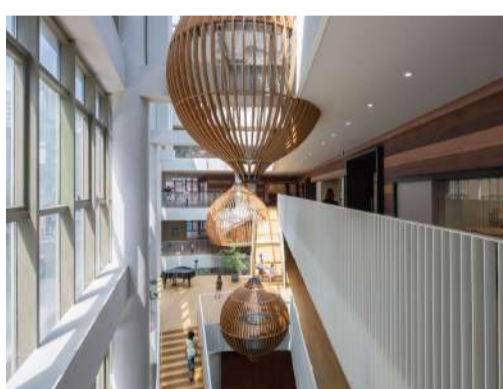


▲台湾・台北のモンテッソーリー保育園視察にて

A 毎年世界中の教育施設を視察していますが、教育の理念が正しく環境に反映されている事例はまだ多くありません。それは、設計側が教育を深く理解していないことに起因します。すべてを一気に変えることは難しくても、私たちが発信し続けることで、一人でも多くの人に「環境の大切さ」に気づいてほしい。その上で、私たちが直接、子どもたちのための建築やインテリアに関わることができれば、これ以上の喜びはありません。私たちは単なる設計者ではなく、共に理想の教育を追求するパートナーでありたいと考えています。世界各地で培った知見を、日本の幼児施設のこれからの未来へ還元できる機会を心待ちにしております。

Q 最後に、読者へメッセージをお願いします。

A 現場で得たリアルな経験を設計へと還元し、絶えず価値の循環を生み出します。私たちは建築・研究・運営を横断しながら「あそびこころ」を起点に社会をアップデートし、新しい豊かさを創造し続けます。



▲中国深圳の幼稚園・4層吹き抜けの大空間

日比野設計のブランド・ステートメントを策定しました

「遊んでる？食べてる？つくってる？」



日比野設計のブランド・ステートメントを策定。「あそびこころ」で、社会を更新！

日比野設計が大切にしている「あそびこころ」とは、単なる楽しさではなく、人の主体性や創造性を引き出すエネルギーそのものです。子どもが遊びの中で学び成長するように、大人もまた、「あそびこころ」を持つことで固定観念から解放され、新しい視点で価値を生み出せると私たちは信じています。

この想いは、私たちの全事業を貫く軸となっています。設計部門である「幼児の城」「福祉施設研究所」「KOL」を起点に、利用者に寄り添う空間を通じて社会課題に向き合い、そこで培われた知見を「社会イノベーション推進室」が深化。さらに「2343」「KIDS SMILE LABO」「TCHIGO MARCHÉ」といった食や地域の活動を通じて実践しています。

現場で得たリアルな経験を設計へと還元し、絶えず価値の循環を生み出します。私たちは建築・研究・運営を横断しながら「あそびこころ」を起点に社会をアップデートし、新しい豊かさを創造し続けます。



▼日々の活動の様子は
こちらからご覧ください！



日比野拓 NOTE



部門を越えて広がる、 海外研修という取り組み

2025年は日比野設計社員 **41** 人が **13** カ国に研修旅行にいきました。

コロナ禍前の2019年まで実施されていた海外研修が、2025年、6年ぶりに復活しました。この研修は、設計に携わる社員が海外の建築に実際に触れながら学びを深めるとともに、設計職に欠かせない対外的なコミュニケーション力を育むことを目的に続けられてきた取り組みです。これまでは、年齢や経験の異なる社員同士がペアとなって旅をするなど、社内のつながりを広げる機会としても大切にされてきました。この6年の間にHIBINOSEKKEIは、設計部門に加えて飲食部門、保育部門へと広がりを見せています。そうした変化を受けて、6年ぶりの研修は部署の枠を越えた新たな取り組みとして再スタートしました。企画の見直しには、20代の若手社員が中心となって関わり、これまでとはまた違ったかたちの研修が生まれています。3つの部署が交わる今回の海外研修。それぞれの視点が重なり合う中で、どのような学びや気づきがあったのでしょうか。今回は、参加した社員2名の声をご紹介します。



▲マレーシア

HIBINOSEKKEI youji no shiro A・Y

6年ぶりに復活した海外研修。嬉しい気持ちの一方で、部署を超えランダムに選ばれたメンバーでの実施になると聞いたときは、正直「これは大変だ…」という不安もありました。年齢も職種も興味もバラバラ、これまで深く関わったことのない方ばかりです。ところが現地では、自然とそれぞれの役割が生まれ、このメンバーだからこそ成り立ったと思える研修になりました。思想の異なる保育施設の見学や感想の共有、ジャングルの奥にある先住民族の村の美しさと豊かさ、現代建築と歴史的な宗教建築の体験など、刺激的な学びの連続でした。そして何より、毎晩、子どもの施設や建築、これからの生き方について語り合い、お互いを知っていった時間が一番の収穫でした。不安から始まったこの研修が、気づけばメンバーのことも、会社のことも、より一層好きになる時間になっていました。



HIBINOSEKKEI youji no shiro S・T

2025年度の海外研修にて、南アフリカという国に訪問出来たことは、自分の人生にとって、大きな財産となったように思います。僕自身が、色んな場所やものごと、学問、本や映画、漫画などに触れることが好きなのは、今の自分自身をフレーミングしている「枠(常識)」を広げることで、これまで見えなかった世界を知覚することができると思っているからです。そして、それは人生の楽しさや豊かさにつながっていると思っています。自分が知覚できる世界が広がったことに対するこのワクワク感は、とても心地が良いものです。この海外研修という制度は、参加したすべての人に多くの学びを与えてくれたと断言できます。この制度が続く限り、我々は常識を常に塗り替えていくことができる、言い換えれば、成長し続けることができるはず。そして、それはきっと、将来の様々な選択に生きてくるのではないのでしょうか。



▲フィンランド



▲スウェーデン・デンマーク



▲日本・北海道



▲南アフリカ



▲スペイン・ポルトガル

日々の食の時間に、たくさんの想いを込めて
『子どもと食』の本を、この**秋**お届けします。

From KIDS SMILE LABO KITCHEN

忙しい毎日の中でも、子どものごはんづくりを大切にしたい。「体にいいものを食べさせたい」「でも、何をどう選べばいいんだろう？」そんなふとした迷いや想いに、そっと寄り添う一冊です。日々の食卓の中にある、小さな工夫や積み重ねが、子どもの味覚と心を育てていきます。この本では、KIDS SMILE LABOが給食づくりの現場で大切にしてきた“食へのまなざし”と、すぐに取り入れられるレシピや考え方を、ぎゅっと詰め込みました。読むたびに、少し肩の力が抜けて、「今日のごはん、これでいいんだ」と思える。そんなあたたかい一冊をお届けします。台所に立つ時間が、少しでも楽しみになりますように。そして、その一皿が、未来へとつながっていきますように。



忙しい子育て世代にも「やってみたい」の気持ちになる本



給食の人気レシピとちょっとしたコツを大公開!

毎日のごはんが、ちょっと**楽しみ**になる一冊

子どもの味覚を育てるにはどうしたらいい?

暮らしの中で見つける「食」のヒント

KIDS SMILE LABOの煮野菜離乳食の魅力



現在、秋出版に向けて撮影が進行しています!!

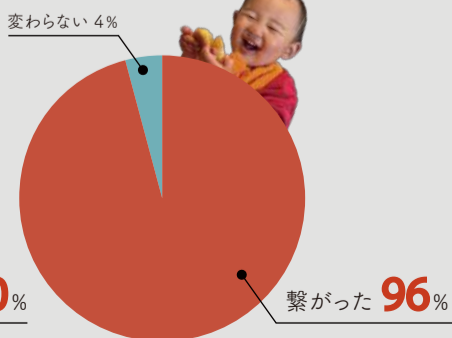
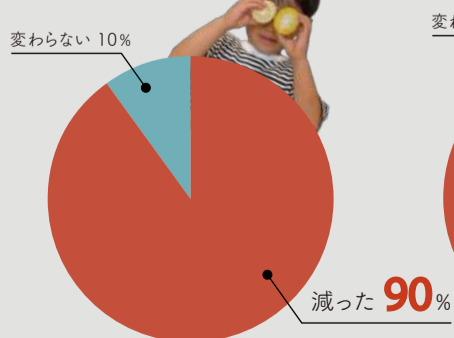


Check!

Q.お子さまの好き嫌いは減りましたか?

Q.KSLの食への取り組みが子どもの育ちに繋がっていると思いますか?

Q.給食を通して感じられた食のエピソードを教えてください。



0歳児の頃からKSLの煮野菜のおかげもあり、どの野菜でも食べることが出来ています。苦手な野菜も最後には完食することが出来るようになりました。

野菜をぜんぜん食べなかったのに、KSLのおかげでたくさん食べられるようになったことに感謝しております。この幼児期のうちに舌ができたことはかけがえのないことのひとつです。

出版についての購入方法はinstagramにてお知らせいたします! KIDS SMILE LABO KITCHENでは「子どもと食」についての相談も行っていきます。DMにてお問い合わせください!



Youji no Shiro NEW PROJECTS



日比野設計 + 幼児の城の
YouTube・Instagramは
こちらからご覧いただけます！



四層吹き抜けのある ダイナミックな園舎

FRAME AWARDS、World Architecture Festival 他

Cheer Kindergarten / Shenzhen, China

中国深圳市にある幼稚園。四層吹き抜けのダイナミックな空間を活かし、縦横に広がる多彩な動線の中に、子どもたちが自由に過ごせる多様な居場所を配置。身体と頭を同時に使って遊べる工夫が随所に施されており、遊びを通じて自然と心身の発達を促す設計となっている。



異年齢のつながりを生み 子どもたちの豊かな社会性を培う園舎

2024 KIDS DESIGN 賞

KZ Kindergarten and Nursery / Saga, Japan

佐賀県神埼市にある幼保連携型認定こども園。建物の中心には園内の動線が交差するオープンスペースを配置。エントランス、各保育室、ダイニングに囲まれたこの空間は、園児やスタッフが日常的に行き交うことで、子どもたちの主体的な関わりと関係性を生み出す「場」となっている。



7 mもの高低差を最大限に活かし 子どもたちの体力を育む園舎

2025 KIDS DESIGN 賞

2025 GOOD DESIGN 賞 World Architecture Festival 他

FK Kindergarten and Nursery / Nagasaki, Japan

長崎市深堀町にある幼保連携型認定こども園。7 m程の高低差を持つ傾斜地という特性を最大限に活かし、地形に沿った建築配置によってダイナミックな遊び場を創出した。地域の歴史や文化、豊かな起伏を空間設計に取り込むことで、子どもたちが日常的にこの街の原風景と触れ合い、感性を育む環境をつくっている。



気候条件を活かした分棟配置により 子どもの活動が広がる園舎

AW Kindergarten and Nursery / Ehime, Japan

愛媛県四国中央市にある幼保連携型認定こども園。橙畑の記憶と段々畑の地形を継承し、日本三大局地風のやまじ風や猛暑と向き合う分棟構成とした。環境を制御するのではなく受け止める設計により、風や光を取り込み、棟間に外部と連続する居場所を生み出すことで、風景と連続する園舎となっている。

